

新エネルギーを活用した障がい者とともにつくる

地球環境に優しいまちづくりプロジェクト

めむろ
(北海道・芽室町)

木質ペレットの製造・販売を通じた未利用バイオマス資源の利活用、知的障がい者の自立支援と社会参加の促進を図るとともに、木質ペレットの普及啓発の場として空店舗を活用することにより、中心市街地の活性化を図る。

木質ペレット↓

芽室町の中心市街地↓



知的障がい者による
木質ペレット製品化
作業(イメージ) →



平成21年度の主な取組

- ① 知的障がい者による木質ペレット製造と製品化の可能性について、専門指導員の作業指導などにより検証
- ② 空店舗を活用した木質ペレットの販売及びペレットストーブ展示、体験型環境関連イベントの実施

平成22年度以降の展開

木質ペレットの製造・保管施設を整備し事業化を図るとともに、公共施設等におけるペレット消費機器の導入や、中心市街地での更なる普及活動による木質バイオマス資源の地域内循環スキームを確立し、中心市街地の賑わいの回復と新たな雇用創出を実現する。

歴史と文化の薫る「にしん街道」元気再生事業

(北海道・松前町～稚内市まで日本海沿岸約700kmの30市町村全域)

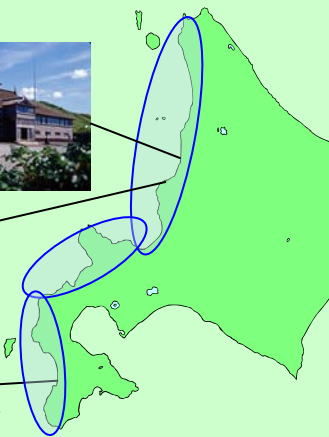
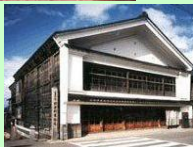
にしん漁により繁栄した北海道日本海沿岸地域の伝統を活かし、にしんに関連する食文化、歴史的建造物、伝統芸能を活用した沿岸約700km30市町村の広域的な観光ルート「にしん街道」の開発に沿岸各地域が官民連携して取組み、新たな観光資源としての定着化を図る。

花田家番屋[国の重文]
(小平町) →

にしん漁の資料展示の
ある総合交流施設 ↓
(増毛町)



にしん漁による繁栄の
面影を残す
古い商家
(江差町)



平成21年度の主な取組

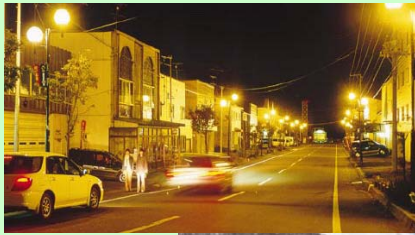
- ① 加工品・料理などのにしんを活用した商品のブランド化のための第三者機関による認証制度の仕組みづくり
- ② 松前町・上ノ国町・江差町をモデル地域に、ご当地料理や名産品開発と合わせたモデルツアーの企画・実施
- ③ 「にしん街道」定着化のためWeb構築など情報発信ツールの整備

平成22年度以降の展開

にしんを使った名産品の認証制度運用や商品開発を行うとともに、ガイドマップの作成等による情報発信の強化、「観光ルート」商品開発及び「にしん街道」キャンペーン実施を通じ、「にしん街道」を北海道を代表する観光ルートの一つとして定着させる。

とよとみ
日本最北の温泉郷 豊富温泉 「地域でつくる“元気な湯治”プロジェクト」
 (北海道・豊富町豊富温泉地区)

皮膚疾患に効果があるとされる日本最北の温泉郷「豊富温泉」において、温泉による療養を目的として訪れる湯治客に対し、長期滞在に適した療養環境の提供や域内移動の援助等のサービス充実を図ることを通じ、温泉地再生による地域の活性化を目指す。



↑豊富温泉街



↑肌に優しい泉質



←長期滞在者向けバス(イメージ)

平成21年度の主な取組

- ① 温泉療養のアドバイスを行う「温泉療養相談員」育成
- ② 長期滞在湯治客へのサービス充実を目的とし、バスやカーシェアリング等域内移動手段、レンタルオフィス、パートタイム労働、農村体験プログラム等を提供。
- ③ 湯治客の長期滞在をサポートする地域体制づくり

平成22年度以降の展開

温泉療養相談員による湯治客への相談サービスを本格的に展開するとともに、遠隔医療システムの導入による更なるサービスの向上を図る。この他、湯治客の長期滞在をより快適にするため、滞在施設や域内移動システム等の一層のメニュー充実を図る。

はこだて「水産・海洋」で元気なまちづくり推進事業 (北海道・函館市)

水産業が抱える、水産物の高付加価値化、水産系廃棄物の処理、水産と観光の融合等の課題に対して、IT等を活用した商品ブランド化やバイオマスの新技術開発、水産物を通じた都市と漁村の交流推進等について、地域に集積する水産・海洋に関する産業や学術機関と住民団体、行政等が地域一体となって総合的に取り組む。



↑函館の水産業の中核をなすイカの水揚げ

↓水産・海洋に関する研究(イメージ)



平成21年度の主な取組

- ① ITを活用した生産者～流通業者～消費者間を結ぶ流通システムやトレーサビリティシステム構築のための実証実験
- ② 水産バイオマスの成分を活かした更なる利活用のための調査分析、技術開発
- ③ 消費者が生産地へ赴くモデルツアーや生産者による消費地での出前講座等の実施

平成22年度以降の展開

IT活用による各システムの普及推進、水産バイオマスの事業化等、各取組の定着・拡大を図るとともに、各取組により得られた人材やノウハウを有機的に連携させ、産官学のネットワークによる地域資源を活用した新産業の創出、地域経済の活性化を実現する。

街なかが十勝の四季の魅力でいっぱい！

環境モデル都市おびひろの『おもてなし』創出プロジェクト（北海道・帯広市中心市街地エリア）

帯広市の豊かな地域資源や環境モデル都市としてのポテンシャルを活かし、商店街の『環境ショーケース』、オープンカフェの設置等により賑わいを創出するとともに、これらをコーディネートするエリアマネジメント会社の収益モデルを構築し持続的展開を図る。

帯広市の
中心市街地商店街



← 空き店舗を活用した
環境ショーケース(イメージ)

平成21年度の主な取組

- ① 商店街の空き店舗を活用して新エネ技術の紹介等を行う『環境ショーケース』の設置、オープンカフェ等の開催
- ② 『十勝ふるさとマーケット』の立ち上げと宅配サービスなどの実証実験
- ③ エリアマネジメント会社の設立に向けた収益モデル構築と担い手の育成を実施

平成22年度以降の展開

十勝の魅力発信拠点として、新エネ技術の発信や環境教育機能を有する施設(環境ショールーム)の整備、太陽光発電を導入したアーケードの再生とともに、エリアマネジメント会社によるアンテナショップの本格的な展開やオープンカフェなど、賑わい空間創出による中心市街地活性化を図る。

低炭素社会に向けての挑戦～下川町環境モデル都市具現化プロジェクト～

(北海道・下川町)

未利用資源を活用した循環型森林施業システムの構築、早生樹「ヤナギ」の植栽によるバイオマス資源の確保、バイオマス調査・研究機関の設置とともに、都市部のヤナギ里親による体験型エコツアーの実施により低炭素社会の構築と地域活性化を図る。

↓ 林地残材の収集



↑ ヤナギ里親による
体験型エコツアー



ヤナギの挿し穂
← 試験栽培

平成21年度の主な取組

- ① 林地残材の収集・運搬やヤナギ挿し穂の試験栽培の実施、バイオマス研究機関の設置と同機関におけるバイオマスの調査・研究
- ② 都市と地方の環境交流を促進する体験型エコツアー(ヤナギ植栽等)の試行

平成22年度以降の展開

林地残材の収集システム確立による循環型森林施業の事業化、ヤナギの栽培面積の拡大と栽培・収穫の事業化、バイオマス研究機関によるバイオマス利活用の調査・研究を実施するとともに、体験型エコツアーの常時実施による低炭素社会の実現と地域活性化を図る。

びばい 美唄の元気再生:「こころを耕すプロジェクト」キックオフ事業 (北海道・美唄市全域) びばい

美唄市の芸術・文化交流施設「アルテピアッツァ美唄」と同市の基幹産業である農業を組み合わせる新たな体験交流型ツーリズムを構築するとともに、地域活性化の担い手同士の連携・交流を図ることにより、地域の雇用機会創出とコミュニティの再生を目指す。

「アルテピアッツァ美唄」↓



↑美唄市の基幹産業である農業生産の風景

平成21年度の主な取組

- ① 関係団体間の相互支援、及び連携・協働、担い手人材育成の場としてのプラットフォーム形成
- ② 美唄の農業や自然体験を内容とした「半農半X(エクス)ライフスタイル体験ツアー」等体験ツアーの企画及び実施
- ③ 子ども達に対する芸術文化活動の支援や地域の農業への理解を深める食育の実施

平成22年度以降の展開

21年度における取組成果に基づき、プラットフォーム組織である「美唄の元気再生協議会」において更なる事業展開を図るとともに、美唄への移住・定住のきっかけを作る農業・芸術の体験の場の構築や、統廃合が予定される公共施設等を有効活用した芸術の拠点整備を行う。

アリキキアンロ(みんな頑張ろう)シラオイ再生プロジェクト
～アイヌの智慧を活かしたビジネス創造～

しらおい (北海道・白老町)

保存伝承されてきたアイヌの伝統食材・工芸品等を活用した新商品開発と市場性の検証とともに、演出に趣向を凝らした移動博物館の実施やアイヌ文化をデジタル化し戦略的に情報発信することによりビジネスモデルを構築し持続的な雇用と所得の創出を図る。



↑アイヌ民族博物館の展示



↑アイヌ文様刺繍による木綿衣



←移動博物館のイメージ

平成21年度の主な取組

- ① アイヌの伝統食材・工芸品を活用した商品化を原材料の供給から販売までオール白老の取組として実施、その市場性の検証
- ② アイヌ文化の魅力を体験できる移動博物館やアイヌ文化ツアーの実施、デジタル化したアイヌ文化を世界に向けて情報発信。

平成22年度以降の展開

伝統食材・工芸品について、保存方法やパッケージに関し検証・開発を進め全国展開を図るとともに、移動博物館の充実やアイヌ文化ツアーの本格実施、デジタル化したアイヌ文化の海外への発信等の取組みを展開し、ビジネスモデルの構築と観光客の増加による地域活性化を目指す。

《登別》健康スリムアップシティ構想

(北海道・登別市)

～田舎の人も都会の人も、まち(行政)も温泉も、みんなスリムになって元気になるプロジェクト～

保険給付額増加等の課題を抱える登別市の地域医療について、地域資源である「登別温泉」を活用し、地域住民への健康プログラム提供を通じて財政負担削減を目指すとともに、同プログラムを観光客にも提供することにより地域の観光産業活性化を図る。



↑ 登別温泉街

↓ 専門的人材の育成
(イメージ)



平成21年度の主な取組

- ① 大学と連携した地域住民向け健康プログラムの開発、温泉旅館との提携による同プログラムの提供
- ② 地域住民向け健康プログラムを国内からの観光客に提供し、商品性を検証
- ③ 運動療法、水治療法、健康保養治療法等に精通した専門的人材の育成

平成22年度以降の展開

健康プログラムについて、海外からの観光客に向けての提供や、特定検診・特定保健指導等のメニューとして企業や健康保険組合との連携により提供すること等を通じ、事業として本格的に展開する。さらには本事業をモデル化し、他の温泉地への展開を目指す。

農業を基礎としたライフスタイル・イノベーションによる観光産業活性化及び地域振興

(北海道・帯広市・音更町・幕別町・芽室町をメインとした十勝全域)

人々の興味・関心が高まっている「健康・美・保健福祉・医療」の分野と、十勝地域のもつ豊かな自然環境、農村風景、高レベルの農業を、情報発信も絡めて観光資源として組み合わせることにより、新たな滞在型観光を創出する。



← 十勝平野の豊かな自然



マルシェ(農産物直売所)の様子

→

平成21年度の主な取組

- ① イベント「十勝マルシェ」や食・健康等テーマ別のワークショップの開催を通じ、十勝の農業を活用したスローフードをベースとしたヘルスツーリズムの商品開発、モデルツアーの実施
- ② マップ、デジタルサイネージ等、スローフードを基礎とした滞在型観光を提案するコンテンツの開発及び情報発信

平成22年度以降の展開

農商工連携や広域観光連携により開発されたツアーを順次実施、発展させていくとともに、国際シンポジウムの開催、メディアへ情報発信等のPRの強化を通じて、新たな観光産業分野の開拓、交流人口の拡大、長期滞在・移住促進、雇用の受け皿づくりを実現する。

みなとを核とした礼文^{れぶん}地域再生プロジェクト

(北海道・礼文^{れぶん}町)

島の元気は海とみなとから！～最北の離島において島民あげての取り組み～

日本最北端の離島である礼文島において、島に所在する港を核とした新たな観光ルート・体験型観光メニューの開発や、担い手人材の育成などの取組を通じ、地域の観光産業の活性化を図るとともに、観光、漁業等の地域産業への就業者増を目指す。



↑ 礼文島の美しい自然

新たな観光ルートが想定 ↑ される西側海岸



礼文島での
昆布干し →



←島の高校生による
ガイドツアー

平成21年度の主な取組

- ① 島内の「みなと」を核とする新たな観光ルート開発に向けた調査・実証実験
- ② 昆布を持った水産加工体験、地元の魚介類を使った料理体験など、新たな体験型観光メニューの開発
- ③ 島のまちづくりや、漁業を担う人材の育成

平成22年度以降の展開

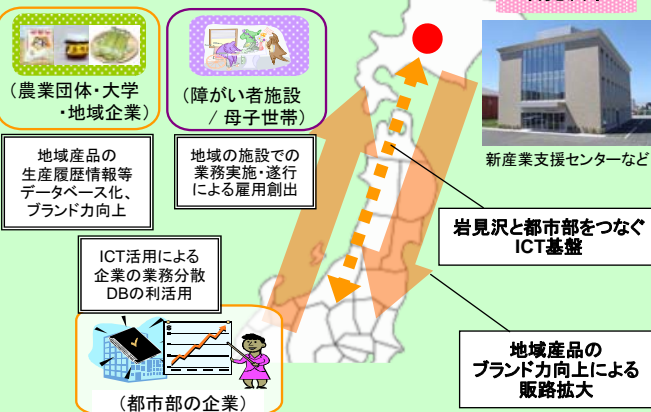
旅行会社と連携して「みなと」を核とする体験型観光メニューの商品化を目指すほか、島のまちづくりや漁業を担う人材育成計画の策定に取り組む。また、漁業への就業講座の常設に向けた検討を進めるとともに、体験型観光メニューの充実などにより雇用機会を創出する。

都市と地方をつなぐ高度ICT基盤を活用したネットワーク型地域活力向上プロジェクト

(北海道・岩見沢市)

岩見沢市が保有する高度ICT基盤を利用して、企業情報部門の地方への業務分散体制を構築し、障がい者、母子世帯等に雇用機会を創出するほか、地元大学との連携による地域産品の高付加価値化、都市部企業との連携等による地域産品の販売促進を図る。

ICT基盤を活用した体制(イメージ)



平成21年度の主な取組

- ① 障がい者施設や母子世帯にも雇用機会を創出する都市部の情報企業の地方への業務分散体制を構築
- ② 地域の大学との連携により、地域産品に係る品質認証システムを構築
- ③ 都市部の企業との連携により、地域産品の販売促進イベント開催などを実施

平成22年度以降の展開

地域連携拡大(帯広市、旭川市等)により、地方への業務分散体制を拡大し、さらなる雇用機会の創出、地域産品のブランド力向上を図る。

再発見！小樽うみ元気プロジェクト ～海の職人と市民の協働による海づくり～

(北海道・小樽市)

今まで地域資源として十分に活かされていない小樽の海について、海に関係する専門家(海の職人)と市民とが協働して取り組むことにより、「海」を共通のキーワードとした、小樽市の新たな地域ブランド形成とまちの賑わい活性化を図る。



←遊休化した貯木場



↑ライフセービングの海の職人(イメージ)



←市民との協働イベント(イメージ)

平成21年度の主な取組

- ① 小樽市に面する「海」を活用した地域ブランド構築検討。
- ② 遊休港湾施設、海水浴場、漁村、スポーツ等を活用し、「海」と関連するイベント等各種プログラム開発。
- ③ 船舶管理、ライフセービング、ガイド等、海に関する知識を有する「海の職人」人材育成。

平成22年度以降の展開

元気委員会の法人化により推進体制を強化し、また、海を活用した新たな地域ブランドを元に、地域内の交流人口の増加を図るほか、積丹半島など周辺の後志地域と連携した地域ブランド化を進め、ビジネスチャンスの拡大、移住促進等を図る。

後志町村地域医療人育成プロジェクト

(北海道・後志支庁内町村)

医学部学生の地域医療実習への参画機会の増大、それに伴う実習指導者(地域医療スタッフ)の研修機会の確保、地域住民の医療知識の向上、受療行動の是正(健康づくりサポーターの育成)を通して、地域医療の質の向上を図る。



健康づくりサポーターを育成、地域住民の意識向上(イメージ)



地元医療機関



医学部学生の地域医療実習の機会増大(イメージ)

地元住民

医療知識の向上
適切な受療行動

安全安心の
地域医療政策の展開

行政・協議会

指導者の招聘

大学

実態把握調査
大学院スタッフによる継続的的刺激策

平成21年度の主な取組

- ① 医学部学生の地域医療実習の拡充 及び実習指導を通じての地域の保健・医療等の実態把握
- ② 国内外の地域医療指導者を招いての指導者養成研修実施
- ③ 地域住民への医療知識の普及を促進、地域医療の健全な育成を図るための高い医療知識を持った健康づくりサポーターを育成

平成22年度以降の展開

後志町村地域医療人育成協議会への参加町村の拡大を図り、家庭医養成プログラムを充実化、医師の中長期育成計画の検証を行なう。また、地域医療従事者の確保に努め、地域住民の医療知識を向上させ、地域医療の質のさらなる向上を目指す。

「ふらの演劇のまちづくり」人材育成プロジェクト

(北海道・富良野市)

作家倉本聰氏が築いてきた「富良野塾」という演劇を通じた人材養成システムを市民で継承、市民と観光客が演劇に関わるワークショップ等により、表現力豊かでコミュニケーション力の高い人材を育成、富良野市を北海道での演劇文化の拠点に育て、地域活性化をめざす。



↑ 富良野演劇工場



← 高校演劇
ワークショップ

平成21年度の主な取組

- ① 富良野塾OBによる脚本の舞台(道具作り、衣装製作、音響・照明等)を市民参加により創作。市民プロデューサー育成事業の実施
- ② 市民劇団設立のための人材育成を目的とする、富良野塾OBによる公演への市民参加
- ③ 小中高校に富良野塾OBが出向き、コミュニケーション力、表現力を高めるワークショップ開催
- ④ 「富良野演劇工場」来館者増員を目的とする市内巡回バスの運行

平成22年度以降の展開

富良野演劇フェスティバル実行委員会の立ち上げ、富良野市内全小中学校参加による子どもミュージカルプロジェクトの開始、富良野塾OBによるプロモーションチームの立ち上げなどにより、観劇目的の人的交流など、演劇を切り口とした地域住民が一丸となったまちづくりを展開する。